

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 12 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (10/12 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	33.6	105.8 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.9m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 4.5 m ³ /h	45.2	4.72 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 2.1 m ³ /h			B系： 0.10 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 4.6 m ³ /h	45.7	0.20 kPa g	A系： 0.22 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.20 vol%

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

<2. 使用済燃料プールの状況> (10/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.0
2号機	循環冷却システム	運転中	24.5
3号機	循環冷却システム	運転中	22.8
4号機	循環冷却システム	運転中	30

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

【4号機】・使用済燃料プールの構造材の中期的な腐食の進展・破損を抑制するため、H23 8/20 から塩分除去装置の運転を開始していたが、原子炉ウェル水の流入により、再度、使用済燃料プールの塩素濃度が上昇。
H24 4/27 から原子炉ウェルおよび使用済燃料プールの塩分除去を目的とした塩分除去装置(モバイルRO装置)の運転を行ってきた結果(9/20 からはイオン交換装置による塩分除去を開始)、10/12 使用済燃料プールの塩素濃度が約 1,944ppm(運転開始時点)から約9ppm(原子炉ウェルの塩素濃度は約 10ppm)に低下したことを確認したことから、塩分除去を完了。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	10/4 10:19 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	10/4 10:43 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	→ 仮設タンク	10/12 10:00 ~ 15:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/12 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/10/10 10時頃から12時10分頃にかけて、1号機原子炉格納容器の貫通部の一つ(X-100B ペネ)より、CCDカメラおよび線量計をグレーチング下部まで挿入し、格納容器内部の水位確認および線量率測定を実施。調査の結果、水位はドライウェルの床上より約2.8m上部にあること、また、格納容器内部の線量率は、約0.5Sv/h～約9.8Sv/hの範囲であることを確認。

以 上